

# 指定管理者更新に係る検証シート

## 1 施設及び指定管理者の概要

施設名	えひめこどもの城	施設所管課	保健福祉部生きがい推進局子育て支援課
設置年月日	平成10年10月24日	耐用年数	50年
現指定管理者の名称	伊予鉄総合企画株式会社	現指定期間	平成31年4月～令和6年3月(5年間)
これまでの指定の状況	第1期:平成18年4月～平成21年3月(3年間)、第2期:平成21年4月～平成26年3月(5年間)、第3期:平成26年4月～平成31年3月(5年間)		

## 2 検証のための指標の推移

### (1) 利用者数

	平成17年度 (制度導入前年度)	平成30年度 (現指定期間前年度)	平成31年度 (令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
年間利用者数	306,540 人	365,250 人	336,530 人	191,380 人	201,290 人	287,370 人 (186,250 人)
対制度導入前年度比			109.8 %	62.4 %	65.7 %	93.7 %
対現指定期間前年度比			92.1 %	52.4 %	55.1 %	78.7 %

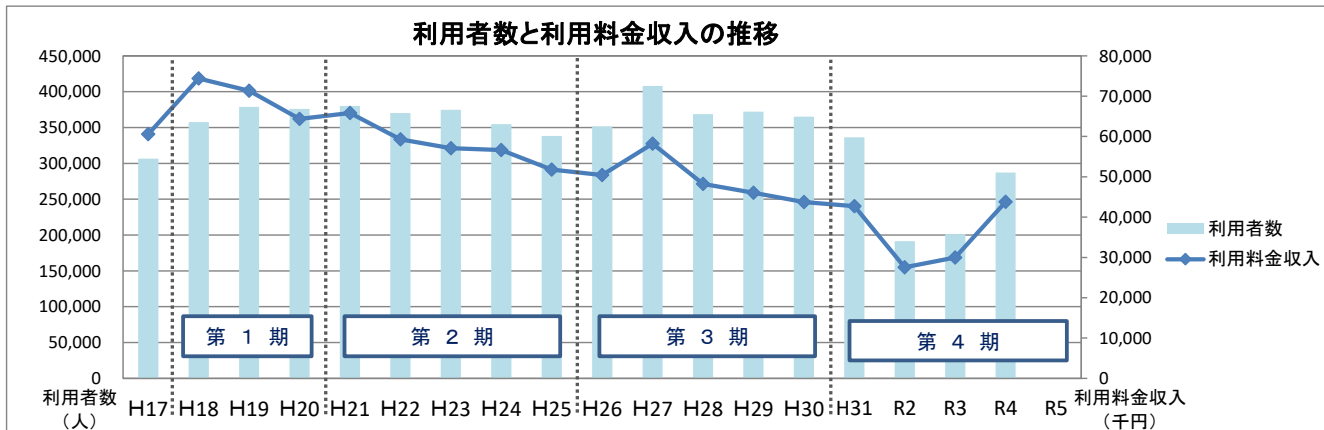
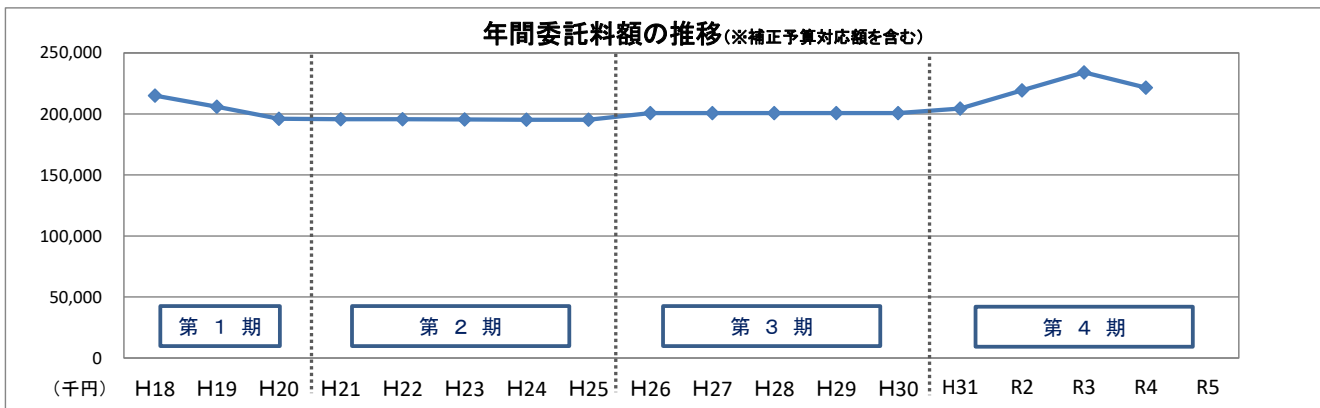
(※)令和4年度については、上段に年間見込数を、下段( )内には令和4年10月末までの実績数を記載。

### (2) 収支状況

	平成30年度 (現指定期間前年度)	平成31年度 (令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度※1
収 (A) 入	306,040 千円	298,505 千円	287,875 千円	310,960 千円	313,938 千円
委託料	200,675 千円	204,486 千円	205,061 千円	205,061 千円	205,061 千円
委託料(補正予算対応額)※2	— 千円	— 千円	14,294 千円	29,018 千円	16,426 千円
利用料金収入	43,755 千円	42,703 千円	27,560 千円	29,963 千円	43,811 千円
その他の収入	61,610 千円	51,316 千円	40,960 千円	46,918 千円	48,640 千円
支 (B) 出	316,340 千円	295,645 千円	288,054 千円	310,960 千円	313,938 千円
収(A) - 支(B)	▲ 10,300 千円	2,860 千円	▲ 179 千円	0 千円	0 千円

(※1)令和4年度については、見込み額を記載。

(※2)新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により、補正予算で増額した委託料を記載



### (3) 経費削減のための主な取組み（平成31年度～令和4年度）

- こどもの城ボランティアスタッフなどの活用、職員の業務分担の見直しやRPAによる一部の定型業務の自動化等で事務の効率化を図ることにより、人件費を抑制
- 電力デマンド監視装置（電力使用量を監視し、設定値を超える電力使用を抑えるための装置）導入や徹底した消灯、一部機器のLED化などによる光熱費の抑制
- 職員スタッフによる軽微な修繕・補修、除草作業の実施
- 民間企業や他団体とのタイアップ事業の実施や企業協賛による広告物の作成等による経費の抑制（民間企業に一部経費を負担してもらう。）

### (4) サービス向上のための主な取組み（平成31年度～令和4年度）

- SNSによる広報により、イベント告知や実施画像の掲載など来園促進を実施
- YouTube公式チャンネルの運用、またインスタグラムによる動画投稿での分かりやすい告知
- 「泡フェス」「キャラクターショー」「ゆるキャラ運動会」などの大型イベントの企画・実施
- 「えひめ愛顔の子ども芸術祭」の開催に併せて、出展作品制作のためのワークショップを開催
- 体験型室内アトラクション「みきゃんデジタルアートミュージアム」の運用
- 学校の夏季長期休業期間中における閉園時間の1時間延長
- 夏季及び冬季における夜間イベント実施
- 学校長期休業期間中及びゴールデンウィーク期間中を無休化
- とべ動物園との駐車場共有化・休園日の統一
- 新小学1年生に対する年間無料バスポートの配布
- 誕生日の子どもに、「おめでとうパス」を発行し、遊具等の1回無料化
- 毎月第二火曜を「家族の日」として成人の遊具無料化
- 年数回、遊具にかかる無料デーや1日フリーパスを設定
- 松山市駅内他、県内複数箇所のデジタルサイネージ、ビジョン広告にて、施設のイベント案内等を掲載
- 夏季や冬季など学校長期休暇にあわせ、こどもの城を含む県内のイベント情報をまとめたイベントガイドを発行
- 学生2名以上での来園時に利用できる「TEAM割引」を実施し、高校生・大学生の来園者増、遊具利用促進を図る
- ジップラインを軸として、とべ動物園・総合運動公園・えひめこどもの城の3施設が一体となり、「とべもり」としての利用促進を図る
- 園内の様々なコンテンツやサービスをまとめた「団体利用案内」冊子を作成
- 旅行代理店等がスムーズに予約できる団体用ジップライン申込ページを作成
- 新たな団体向けコンテンツとして、SDGs学習コンテンツを開発し、ハード・ソフトを含め修学旅行等の団体利用促進に取り組む
- 「大人のためのワークショップ」を常時開催し、幅広い年齢層をターゲットとしたプログラムを実施
- 創作工房において平日限定プログラムを実施し、平日の利用者増に取り組む

### (5) コロナ禍における感染対策や利用者確保のための主な取り組み

- R2,3年度の緊急事態宣言等により休園となった期間では、段ボール工作やレク遊び・うたなど、家庭で楽しめる「あそび」動画をYouTubeに公開し、様々な情報発信を行った。
- 開園時には、児童館入口の検温機器の設置、各所への手指消毒液の設置、イベントの分散実施や人数制限、健康チェック表を用いた参加者の健康状況把握など感染症対策を行い、屋外を中心としたイベントを実施するなど、来園者が安心して遊べるよう配慮した。
- また、来園者の接触時間・機会を減らすために、園内トイレの洋式化や駐車場自動料金収受機や遊具券売機のキャッシュレス化、混雑状況を把握するための監視カメラを設置するなど、ハード面での整備も行った。
- 臨時休園期間や感染拡大期間中に来園できなかった状況を鑑み、「一年生パス」や「おめでとうパス」の利用可能期間を延長する等、来園者の意見を反映したサービス運営に取り組んだ。
- レストラン・アイリヴァージュでは認証された「愛顔の安心飲食店」の基準に基づき、アクリルパネルの設置や客席の間を広く設定し、テーブル等の消毒もこまめに行うなど感染予防対策を十分に行い実施した。

## 3 次期更新に向けての評価等

### (1) 現指定期間における指定管理者制度の導入効果の検証

<p>利用拡大の観点（利用者数、利用料金収入）</p>	<p>今期は新型コロナウイルス感染症の影響により、年間来園者数平均は前期と比較して半数程度となっているが、小中学生の長期休暇であるゴールデンウィークや夏季・冬季休暇時に、大規模な集客イベントをはじめとする民間ならではの工夫を凝らした様々なイベント等を開催するほか、R2年度にオープンしたとべもりジップラインを軸に、幅広い年齢層の来園に繋がっており、着実に制度導入による効果を上げている。</p> <p>遊具の利用料金については、制度導入前とほぼ同じ料金に据え置くなど、家族連れが利用しやすいように低料金を維持している。</p> <p>指定管理者として、集客数を増やして遊具等の収入を上げる努力をしているが、近年の猛暑・長雨の影響や、老朽化による人気遊具の故障に伴う運休、無料サービスの導入等、新型コロナウイルスの影響により、ここ数年、利用料金収入は減少傾向にある中、指定管理者の経営努力により支出を抑制し、委託料は一定水準を維持している。</p>
<p>効率化の観点（経費削減）</p>	<p>「2(4)経費削減のための主な取組み」に例を挙げているように、指定管理者の経営努力により経費削減に努めており、各設備の経年劣化により修繕費が増加する中、指定管理者制度導入前の平成17年度と比較し、委託料は30%程度の削減を維持しており、経費削減の面でも制度導入の大きな効果を上げている。</p>
<p>利便性・県民サービス向上の観点</p>	<p>「2(5)サービス向上のための主な取組み」に例を挙げているように、民間事業者ならではの創意工夫を凝らした様々な取組みを行うなど、こどもの城利用者の利便性を大きく向上させており、指定管理者制度導入の効果を上げている。</p> <p>また、来園者等に対して、園内で利用者アンケートを実施するなど要望等の把握に努めており、「お客様担当」を置いてクレームに対応するとともに、アンケート結果に対する対応や回答を園内に掲示し公開しており、指定管理者として利便性の向上に努めている。</p>
<p>その他の観点から（前指定期間と比較して特筆すべき成果、利用者等の安全性の確保、収入確保に向けた取組みの状況（広告事業等）、その他協定の履行状況など）</p>	<p>基本協定・年度別協定の確実な履行を継続しているほか、コロナ禍で安定した収入確保が困難な中で、支出状況を見直し、不要な経費の削減等に努め、適切な運営管理を行っている。</p> <p>開園時間及び開園日の拡大や無料バスポート発行などのほか、R2年度に導入したとべもりジップラインを軸に隣接するとべ動物園、愛媛県総合運動公園と連携した周遊促進等に取り組んでいる。</p>

## (2) 次期更新に向けての方針及びその説明

えひめこどもの城については、指定管理者である民間事業者の知恵を活かした、創意工夫溢れる様々な取組みによって、指定管理者制度導入前(H17年度)との比較では、来園者は平均で20%以上の増加、委託料は各設備の劣化により修繕費が年々増加する中でも30%程度の削減額を維持しており、指定管理者制度導入の大きな効果を上げている。

また、大きなトラブルもなく適切で良好な運営がなされており、令和6年度以降についても指定管理者制度を更新し、次世代を担う子どもたちの健全育成の拠点施設として、適切で効率的な管理運営を行っていきたい。